



2021年の展望



有功社シトー貿易株式会社
代表取締役社長 谷口有三氏

進化できるか正念場の年

皆さま、明けましておめでとうございます。

伝統行事の賀詞交歓会も中止され、改めて異常事態に身を置いていると実感致します。私どもは何とか皆さまのお陰で年を越すことができましたが、創業34年にしてこれまでのビジネスモデルが機能不全を起こし、このカタチでの事業継続は困難であることを天から言い渡された2020年でした。

弊社は印刷・紙器・段ボール事業者様向けに特化した生産副資材、機器類を納入する専門商社ですが、新型コロナウイルスが要因で箱の生産が急落することで弊社売上に急ブレーキがかかりました。製函産業全体での生産量は平均マイナス5%との統計があっても、それは通販、大手ブランドの食品、飲料といった大手事業者が得意とする大口ト

ものの底上げが、それ以外の生産量の下げ幅を抑止しているもので、こうした大手工場ではグラビア輪転打抜機やメタルダグルアーといった弊社消耗資材をあまり要さないマシンの稼働率が上がっています。

個人消費が、観光客の訪日、輸出が、回復しない状況が続く限り弊社の業績回復は期待できないだけでなく、この間に新しい生活様式の浸透で従来型の箱の需要は元に戻らないと想像しています。

生産能力を持たない弊社は新しい商品を作ることができません。その意味で、今年は凹んだ事業を埋める新たな事業を創造する以外に生き残る道は無いと断言しています。

昨年は、チャレンジとして弊社を疲弊させた憎き「新型コロナウイルス

ナをぶっ飛ばせ」、の意気込みで段ボール製組立式診療ブース『どこでも発熱外来』を自社オリジナルで医療機関向けに、またプロ写真家向けに『キャンパス写真&クリックフレームセット』を提案いたしました。これは本業の落ち込みをカバーするまでにはなりませんでしたが、どちらも高いご評価をいただきました。

これが叶ったのは弊社のお客様を外注加工所としてお手伝いいただいたことによりです。改めて各社様の技術力の高さに敬服しました。

また、弊社社員の中にプロデューサーセンスが芽生えてきたことも私には大きな励みとなりました。恐らく彼らが今後の中核になっていくと思います。

政府の第三次補正予算案で追加の歳出19兆円が年末に出され

ましたが、企業向けに事業転換支援1兆1485億円が付きました。これが意味するようにポストコロナに向けての対策は、強引な進化が求められていると認識しました。

今年も倍旧の御最良を宜しくお願い申し上げます。

